



山形県感染症発生動向調査

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
2016年11月22日 発行

平成28年第46週(11月14日~11月20日)

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第45週	第45週	第46週	増減	第45週	第46週	増減	第45週	第46週	増減	第45週	第46週	増減	第45週	第46週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	4133 0.84	19 0.40	23 0.48	▲	6 0.30		▽				3 0.30	▲	13 1.00	20 1.54	▲	14000	
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	3774 1.19	92 3.07	73 2.43	▼	51 3.92	44 3.38	▼	4 1.33	3 1.00	▼	24 4.00	21 3.50	▼	13 1.63	5 0.63	▽	1436
咽頭結膜熱	873 0.28	9 0.30	9 0.30		7 0.54	6 0.46	▽	1 0.33		▽				1 0.13	3 0.38	△	675
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	6290 1.99	153 5.10	221 7.37	▲	70 5.38	122 9.38	▲		2 0.67	▲	52 8.67	54 9.00	▲	31 3.88	43 5.38	▲	6438
感染性胃腸炎	29613 9.37	237 7.90	476 15.87	▲	144 11.08	237 18.23	▲	14 4.67	23 7.67	▲	64 10.67	160 26.67	▲	15 1.88	56 7.00	▲	7978
水痘	1475 0.47	16 0.53	36 1.20	▲	6 0.46	11 0.85	▲				2 0.33	12 2.00	▲	8 1.00	13 1.63	▲	502
手足口病	2319 0.73	9 0.30	8 0.27	▽	2 0.15	7 0.54	▲				4 0.67	1 0.17	▽	3 0.38		▼	377
伝染性紅斑	301 0.1		1 0.03	▲											1 0.13	▲	1458
突発性発しん	1366 0.43	25 0.83	18 0.60	▽	9 0.69	8 0.62	▽	2 0.67	1 0.33	▽	7 1.17	7 1.17		7 0.88	2 0.25	▽	885
百日咳	62 0.02		1 0.03	▲		1 0.08	▲										20
ヘルパンギーナ	526 0.17	18 0.60	14 0.47	▼	4 0.31	6 0.46	▲		2 0.67	▲	7 1.17	5 0.83	▽	7 0.88	1 0.13	▼	2910
流行性耳下腺炎	3367 1.07	56 1.87	57 1.90	▲	22 1.69	24 1.85	▲	12 4.00	8 2.67	▽	21 3.50	25 4.17	▲	1 0.13		▽	2724
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	3 0																1
流行性角結膜炎	496 0.72		3 0.38	▲		2 0.50	▲		1 1.00	▲							64
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	11 0.02																20
クラミジア肺炎	8 0.02																4
マイコプラズマ肺炎	627 1.33	9 0.90	9 0.90		6 1.50	2 0.50	▽	1 1.00	1 1.00					2 0.67	6 2.00	▲	143
細菌性髄膜炎	14 0.03																6
無菌性髄膜炎	23 0.05																13

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	3		2		肺炎球菌ワクチン接種歴:3回 1件、無し 1件、不明 3件。
アメーバ赤痢	患者	1				※第45週追加報告分。

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ			4	2	4	3	2	1	1			1			
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
		3	2												23
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	8	20	18	14	3	3		2	2	2	1				73
咽頭結膜熱			4			1	3	1							9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1		14	14	10	19	21	24	24	32	18	41	1	2	221
感染性胃腸炎		20	62	51	67	62	45	46	29	26	16	35	4	13	476
水痘			4	2	2	8	6	5	6	2		1			36
手足口病			4	1		1	2								8
伝染性紅斑				1											1
突発性発しん		7	8	2	1										18
百日咳							1								1
ヘルパンギーナ		3	4	1	1	4					1				14
流行性耳下腺炎		1	4	6	7	12	14	6	6			1			57

< 平成28年10月 月報 >

2016年11月22日 更新

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～10月	
	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月	9月	10月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	16	24	7	11	4	10	3	2	2	1	191
	定点当り	1.60	2.40	1.75	2.75	4.00	10.00	1.50	1.00	0.67	0.33	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	4	9	1	3	1	1	2	4		1	62
	定点当り	0.40	0.90	0.25	0.75	1.00	1.00	1.00	2.00		0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	4	3	4	1				1		1	29
	定点当り	0.40	0.30	1.00	0.25				0.50		0.33	
淋菌感染症	報告数	4	4		1			2	1	2	2	22
	定点当り	0.40	0.40		0.25			1.00	0.50	0.67	0.67	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	1	4			2			1	2		55
	定点当り	0.10	0.40			2.00			0.33	0.67		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	22	4	11	3	1	2	1	4	9	173
	定点当り	1.30	2.20	1.00	2.75	3.00	1.00	1.00	0.50	1.33	3.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

<トピックス>

【インフルエンザ情報】

1 定点医療機関情報(第46週)

迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数

置賜地区: A型 2件、B型 1件

庄内地区: A型 18件、A型・B型複合感染 1件、型別不明 1件

2 インフルエンザウイルス分離状況(衛生研究所 11月16日現在)

今シーズン、県内では、AH1pdm2009型 2株、A香港型

2株が分離されています。

3 集団発生状況(県健康福祉企画課まとめ 第46週)

庄内地区: 保育所 1件

インフルエンザは、毎年、冬に流行し、私たちの健康に大きな影響を及ぼす代表的な呼吸器感染症です。感染力が強く、いったん流行が始まると短期間に多くの人へ感染が拡大します。

手洗いでインフルエンザを予防し、かかったら、マスク等咳エチケットを心がけましょう。



こまめな手洗いとマスク着用を心がけ、体調管理に努めましょう。「かかったかな」と思ったら、早めに医療機関を受診しましょう。

【感染性胃腸炎情報】

感染性胃腸炎の定点当たり報告数が、置賜地区で26.7人となり警報レベルとなっています。

【警報開始基準値: 20人 警報終息基準値: 12人】

感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎は、冬季に患者数が増加し、その大半はウイルス感染によるものと推測されます。また、年末の集団発生例の多くは、ノロウイルスによるものと考えられています。

【症状】病原体によって異なりますが、主な症状は嘔吐、下痢、発熱です。

治療は、ウイルス性のものでは対処療法が中心となります。

【予防法】最も重要で、効果的な予防法は「流水・石けんによる手洗い」です。

トイレ後、外出後、調理前、配膳前、食事前など、こまめに手洗いをしましょう。

特にノロウイルスは感染力が強く、注意が必要です。

二枚貝を調理する際は中心

部まで十分に加熱し、使用した器具は熱湯消毒しましょう。

嘔吐物や下痢便にはノロウイルスが大量に含まれています。処理する際は、マスク・手袋を着用してください。

消毒は塩素系消毒剤で行う必要があります。消毒に家庭用漂白剤を使用する場合は、200倍程度に薄めて使用して下さい。

※参考URL: IDWR 2012年第43号<注目すべき感染症>感染性胃腸炎

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/intestinal-m/intestinal-idwrc>

/2923-idwrc-1243.html

